

保健体育部会 研究の構想（案）

平成30年度～

I 研究主題

心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

学習指導要領では、心と体を一体として捉えることを重視するとともに、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを目指し、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」を重要なねらいとしている。

平成27年度からの3か年は、指導と評価を一体化した指導計画や指導過程の工夫について以下のように研究を深めてきた。

- ・学び合い、高め合う生徒同士の関わりを大切にした課題解決学習
- ・他教科等との連携や人材活用を生かした多様な指導方法
- ・運動量の確保と個に応じた指導の充実
- ・自己評価や相互評価を充実させるためのICT機器等の有効活用

平成30年度からの3か年は、29年度までの研究を継続しながら、「主体的・対話的で深い学び」となる指導過程の工夫について、以下のように研究を深めていくこととする。

「主体的な学び」

- ・自らが運動の楽しさや健康の意義を発見し、課題の解決に向けて、粘り強く取り組もうとする指導過程を工夫する。

「対話的な学び」

- ・運動や健康についての課題の解決に向けて、他者との対話を通して、自分の思考を広げ高めていく学びの過程を工夫する

「深い学び」

- ・自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程を工夫する。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

(1) 体育分野

健やかな体の基礎となる身体能力と知識が定着するようにし、身に付けた知識や技能を基に、その段階に応じ運動を豊かに実践していく指導の在り方の研究を通して主題を解明する。

(2) 保健分野

個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解し、その知識を活用する学習活動を取り入れた指導の在り方の研究を通して主題を解明する

2 研究内容

(1) 体育分野

- ・「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の内容を明確にした指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容に対応した評価規準、評価計画の作成と指導に生かす評価の工夫

(2) 保健分野

- ・自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容に対応した評価規準、評価計画の作成と指導に生かす評価の工夫

保健体育部会 令和2年度研究計画（案）

I 研究主題

心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

（体育分野）

身に付けた知識や技能を基に、その段階に応じ運動を豊かに実践していくための指導過程はどうあればよいか。

（保健分野）

自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程はどうあればよいか。

II 主題について

体育分野では、運動に親しむ資質や能力を培うために、運動を豊かに実践したり、自らの健康を管理し、改善しようとしたりするための基礎的な知識や技能を身に付けることや、運動の行い方を理解すること、自己の課題に応じた運動への取組について思考・判断を行うことが大切である。また、明るく豊かな生活を実践していくためには、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲と運動に親しむ態度を育成することがさらに重要となってくる。

保健分野では、生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成が大切である。また、体育分野との関連を図り、心と体をより一体として捉えられるような学習を展開し、食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた生活習慣の形成、ストレスへの対処方法、性に関する指導等を積極的に取り入れていく必要がある。

令和元年度は、チーム編成やワークシートの内容を工夫することで、性別に関わらず声を掛け合ったり、動きの質を高め合ったりする授業実践が見られた。また、生徒が活動内容を自己決定したり、ICT機器を活用して動きを確かめ合ったりできる場を教師が意図的に設定したことで、自主的、主体的に活動する生徒の姿が多く見られた。

令和2年度は、生徒がさらに自主的、主体的に取り組める授業づくりの推進に向けて、以下の2点を重点に掲げ、研究を進めていきたい。

① 運動量の確保と学び合いの充実

・仲間と共に体を動かす爽快感を味わったり、学びへの意欲が沸いたりするような学習内容（ルール等）の工夫。

・生徒同士が学び合える場の設定と気付きを与える教師の発問の工夫。

② 振り返りの充実

・自己の学びと向き合える場の設定と学びを広げる教師の支援の工夫。

そして、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力の育成を目指し、これまでの研究をさらに深めていきたい。

III 研究の内容とその視点

（体育分野）

1 指導計画の工夫

- ・地域や学校の実態、生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮し、指導計画を作成する。
- ・発達の段階のまとまりを踏まえ、小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視した系統性を踏まえた指導内容を整理する。

2 指導過程の工夫

- ・体力や技能の程度、性別及び障害の有無等に関わらず、様々な学習形態を工夫し、コミュニケーションを図りながら、課題解決に取り組む。
- ・生徒自らが必要性を感じ、ICT機器等を有効に活用できるように工夫する。

3 評価の工夫

- ・自他の活動を振り返り、学習の成果が分かる自己評価や他者評価を工夫するなど、よさや可能性を伸ばすことができる評価を実践する。
- ・評価規準を明確にし、単元全体の評価計画を作成するとともに、一人一人の学習状況を把握して、焦点化された評価の在り方を工夫する。

(保健分野)

1 指導計画の工夫

- ・指導目標を明確にして、指導内容の重点化を図る。
- ・3年間を通じて適切に指導内容を配当し、各学年において効果的な学習を行えるようにする。

2 指導過程の工夫

- ・事例等を用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法等の実習、実験、課題学習等を取り入れる。
- ・保健・医療機関や、専門性を有する教職員等との連携・協力を推進し、多様な指導方法を工夫する。

3 評価の工夫

- ・追究過程を記録したノートやレポート等を生かした評価の方法を工夫する。
- ・評価規準を明確にし、単元全体の評価計画を作成するとともに、一人一人の学習状況を把握して、焦点化された評価の在り方を工夫する。

IV 研究方法

- 1 郡市ごとに研究体制を組織し、部長及び研究推進委員を中心とした共同研究を推進する。
- 2 学校や地域の実態、生徒の発達段階等を考慮した指導と評価の計画を作成し、実践に努める。
- 3 過去の研究の成果や課題を明らかにするとともに、特定の分野、領域（種目）、内容に偏ることなく、県・地区レベルでの情報交換を積極的に行い、研究の充実を図る。
- 4 本年度の研究の成果を「研究のあゆみ」として記録し、累積を図るとともに、次年度へ生かす資料とする。

